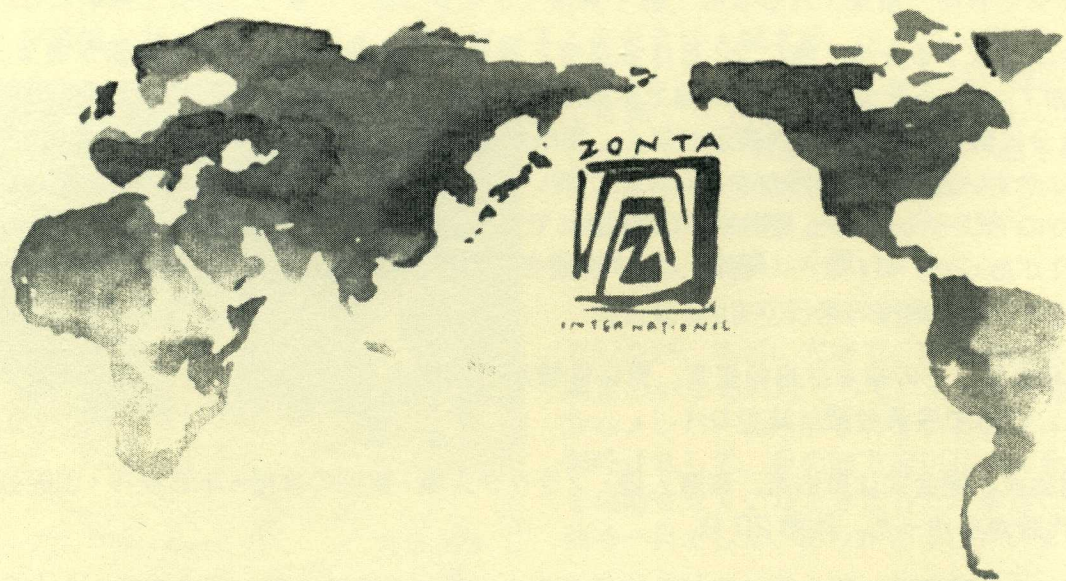


OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱ ゾンタクラブ第41号(2016年3月)



巻頭言

会長 田中 茂美



月日の経つのは早いもので、私のお役目も後、5ヶ月(今は2015年12月)となりました。巻頭言も今回が最後となります。大したことも成さず、繁忙な日々を縫って何とか例会だけは欠席せずに今日となりました。何とか会のベクトルを本来近くに戻し、赤字体質の脱却を図ろうとしましたが、まだまだ6割の達成で結果は、まだ見えずといったところです。会員メンバーは新規入会も無ければ、退会・休会も増えた訳でも無く、例会時の食事内容は毎回、リーガロイヤルのペラコスタにメニューチェックを入れた成果として以前より美味しくなり、なぜか安価になった。例会の出席率を上げ、短い時間ながら互いを知り、和気合々と楽しい例会を皆様と共に過ごしたかったので、「みんな一言」「お誕生月の方へのささやかなプレゼント」を個人的に用意したりしましたが、結果としてはどうだったかは皆様方にお任せするしかありません。ただ、例会がストレスでなくて愉しみであって欲しいと願い、運営していたように思います。自分達の力ではどうにもならない困ったことだと感じたのは、

- ① クラブ内において、諸寄付金はイベント収入で賄うのが筋ですが、諸経費・寄付費目が年数と共に増えていき、寄付金を賄えるイベント開催が困難であること。当クラブでは50万円前後の利益が必要になるが、該当するイベントは派手にすると会員負担が増え、小規模にすると利益が無いのが現状です。同じパターンも飽きぐるのか会員のやる気を削いでしまいます。いっそ、イベントするより数万円ずつ寄付を会員に募った方が労力も少なく、合理的とさえ思うことがあります。バイロースで決められたことなのでそんな訳にはいきませんが。会員の負担が少なく、多くの方に喜んで来ていただけて、楽しくゾンタの理念に合致し、利益が沢山あるイベントは太平洋で特別な1匹の魚を探すようなものかもしれません。
- ② クラブ外において、ゾンタクラブは本来、現役の専門職の女性が会員の資格で女性の社会的地位向上を目指したクラブでした。ですから、原則として、平日は仕事をしている会員が多かったはずでした。しかし、多くのクラブの催し、創立記念会やさまざまな大会が多忙なはずの平日に限って開催されるケースが増加してきています。結果として、現役で仕事に就いている会員・役員は参加が困難になるか、仕事を休んで出席しなくてはならない事が多発しているように思います。元々は仕事あつてのクラブ活動なのでかなり窮屈な感じが否めません。ちなみに私は、仕事上の制約で遠方のクラブのイベントや平日のイベントは出席できないことがほとんどでした(愚痴みたいですがすみません)。

大阪Ⅱ ゾンタクラブが設立される以前から故あって関わっていた時、設立してすぐの時を振り返ると、すでに22年の年月が経過しましたが、そのころ、エリアミーティングや地区大会に出席したら、身につく社会の先端のことが学べて、大変意義深い経験にあったことが思い出されます。時流と共に個人的な色々なゾンタクラブに対する思い入れも流されて影が薄くなって来たように思います。メンバーも変わり、これからは新たに、色々な方々が意見を出し合い、先駆的で意義深いゾンタクラブを創っていただけたらありがたいと願っています。

さしあたって、2016年5月22日に大阪を代表する老舗料亭「花外楼」にて「三林京子さんの講演とお食事の会」をさせていただきますので、皆様、お楽しみに……。おいでくださいませ。

第1日

田中 茂美



日 時：2015年11月22日（木）

主 催：東京Ⅱゾントクラブ

開催地：京王プラザホテル

26地区大会に出席するため、特に22日は会長会と昼食会・歓迎晩餐会・記念講演があるとのことで、仕事を休み早朝7:30分新大阪発の新幹線で午前11時の開催に間に合うように出発した。京王プラザホテルに10:45分に到着したが、案内表示が無く、場所が分かりにくかった。大抵、大きな会があるときは、ホテルの分かりやすいところに表示があるはずだが無い。受付・会場が2フロアに分かれていた。会長会議は自由席だったのでびっくりした。開始は12分遅れで各委員長は前のひな壇席・他は自由席。司会の方から各委員の紹介があった。ガバナー・国際ゾント次期会長のご挨拶があった。次期会長のソニア様は来日2回目でスウェーデンから遥遥の来日です。

休憩1時間あまり、その後お弁当の昼食。更に休憩が1時間あり、デリゲートの方法についての説明が20分程あった。これで会長会議は終わり！

15時から開会式。開会式は自由席。来賓入場・フラッグ入場・歓迎の挨拶・来賓挨拶・国際会長メッセージがあった。代読が多かった。休憩20分。

16時20分から基調講演：登山家 田部井淳子様ユーモアと機知に富んだ講演でした。目標と行動の一致する人生を前向きに生き生きとお話いただきました。

17時10分から地区アワード賞の表彰で松本ゾントクラブ・仙台ゾントクラブが受賞。個人の部は奈良ゾントクラブの島本郁子様が産婦人科医としての地域活動、YWPA木村由美様が平和活動を文にまとめられて受賞されました。

18時20分から歓迎晩餐会が開かれました。

晩餐会

宮本 典子



一日目の夜には歓迎晩餐会がありました。晩餐会にはソニア・ショウ次期国際会長がご主人と一緒に和服でおいでになり、皆大きな拍手でお迎えしました。

歓迎の踊りに、手話ダンスというものがありました。手話で言葉を綴りながら踊ります。耳の聞こえない方と音楽に合わせて交流できる素敵な試みと思いました。

お席は抽選でいろいろ他クラブの方とお友達になれ、お料理もさすが東京と洗練されたものでした。



第2日 午前の部

河村 さと子



大会2日目、第1回目のビジネスセッションが行われた。最初に次期国際会長ソニア・ヘーニック・ショウ女史の挨拶があり、今大会の「奉仕とアドボカシーを通して女性のエンパワーメントを！ ～輝く女性を応援する～」と言うテーマを大幅に東京大会を通じて推進してほしいとの要請があった。そして、また、第1日目の地区大会運営の見事さと豊田由起子地区ガバナーの優れた手腕を称賛された。

引き続き、登録委員会報告、大会会議規則案、大会プログラム案の発表と承認、前地区大会議事録承認、ガバナー報告、副ガバナー・会員委員長報告、2012～2014年地区会計報告と承認、各エリアディレクター報告が行われた。

大阪Ⅱが所属するエリア3ディレクター神田加津代氏は、かねてより立候補している奈良県橿原市長選の投票当日により、やむなく欠席された。尚、当日開票の結果、わずか数百票の僅差で、落選されたことは、同じゾンシャンとして、大変残念なことであつた。

その後の審議決定事項は、2014年第2回地区大会にて、採択された東京に事務局を設置する案は白紙撤回された。

また、2018年東京にて開催される第64回国際大会開催準備金口座を開設すること、26地区全クラブは、3月8日のローズデーや11月の女性と女兒の暴力撲滅週間に参画すること、日本におけるワンストップ支援センターの必要性を啓発していくこと等が取り決められた。

その他報告事項として、26地区は国際奉仕賞に応募すること、東日本大震災義援金口座をこのたび解約すること、2016～2018年の地区予算案報告と承認がなされたこと、以上をもって、午前中のビジネスセッションは終了した。

2018年に横浜で開催される国際大会への準備と布石が今回、正式になされた。

いよいよ、横浜世界大会のビジョンが具体性を帯びてきたことがひしひしと感じられた。

第2日 午後の部

辻 康子



昼食をはさんで、第2回ビジネスセッションでは委員会報告がそれぞれの委員長からありました。大阪Ⅱ ZCの河村さと子会員はアメリカ・イアハート委員長として、2015年度は航空宇宙学を学ぶ学生に授与される奨学金応募者が日本にはなかったことを報告されました。それぞれのクラブが国際ゾンタの目標、方針に沿って活動できるのは地区役員や各委員会委員長さん達のご指導のおかげと改めて感じた次第です。

議事はほぼ時間通りにスムーズに進みました。コーヒーブレイクのあとは2016～2018年次期役員の選挙です。ガバナー、副ガバナー、地区会計、エリア1～4のエリアディレクター、指名委員の候補者合計13人のスピーチを聞きました。候補者の皆さんは堂々と立派にそれぞれの役の抱負をのべられました。大阪Ⅱ ZCの西村博子会員がゾンタや社会での経験をのべられた後、明るく笑顔で指名委員として「責任をもって次期役員を選びます！」と締めくくられた時には思わず大きな拍手でエールを送りました。

行岡指名委員長が委員会報告の中で「指名委員候補者5人を得ることは困難を極めた。(中略)選挙当日のスピーチ等を通じて良きリーダーが選出されますことを期待しています。」と書かれていたのが心に残りました。役員の皆様のなみなならぬご努力ご苦労には本当に頭の下がる思いです。このたび指名委員になられた西村会員は私たちのクラブを代表して次期2年間お役を引き受けてくださるのですから、みんなで協力していきたいと思えます。

地区大会ホストクラブを務めてくださった東京Ⅱ ZCの皆様、てきぱきとした素晴らしい運営に感謝いたします。大変お世話になりありがとうございました。

第3日

笠置 伸子



10月24日土曜日は最終日で9時30分から第3回ビジネスセッションから始まりました。ソニア次期会長から挨拶があり、つぎにクレデンシャル委員長の最終報告が終わり、いよいよ選挙結果報告になりました。

次期役員（2016－2018）はガバナーに高松の真鍋洋子会員、
副ガバナーに北九州の木下彰子会員
地区会計に札幌Ⅱの矢代浩子会員
エリアⅠディレクターに仙台Ⅰの岩井紘子会員
エリアⅡディレクターに名古屋SORAの榎本和会員
エリアⅢディレクターに京都雅の澤井早和乃会員
エリアⅣディレクターにSEN姫路の井野節子会員

次期指名委員（2016－2018）は指名委員長に東京Ⅱの石川朝子会員
指名委員に盛岡の小苺米葉子会員
大阪Ⅱの西村博子会員に決まりました。

その後、各委員長報告を奉仕委員長の好永良子会員、国連委員長の三隅佳子会員、YWPA奨学金委員長三田恵美子会員から次々と報告がありました。そして最後にゾンタ100周年委員長の台湾のエミー・ライ会員が流暢な日本語で、国際ゾンタ100周年記念プレゼンテーションをされました。

順調に会議が進行して、ソニア次期国際会長の総評と長谷部尚子大会副委員長の閉会挨拶で無事終了致しました。盛りだくさんの内容が時間どおりに進行され、豊田ガバナーの綿密な計画と細部にわたる見事な気遣いのおかげで素晴らしい地区大会が終了致しました。

午後からは“さよならランチパーティー”が開かれ、寄付タイムでは500万には届きませんが多額の寄付が集まりました。アトラクションの歌も聞きごたえがあり、次回3月13日～15日でのマニラホテルでのアジア地区大会、7月1日～7日のニースでの世界大会の案内と参加の呼びかけで幕をとじました。

豊田ガバナー、東京Ⅱゾンタクラブの会員の皆様に心から御礼を申し上げます。



賞状授与式と卓話「国立大学初の経営学部と女子学生」

坂本 千代



2015年9月10日の例会にて、昨年度当クラブの推薦でジェーン・M・クローズマン奨学金の地区賞を授与された坂口夏季さんの1年遅れの賞状授与式がおこなわれました。坂口さんが昨年秋から1年間留学で日本を留守にしていたため、帰国を待っての授与式開催でした。



賞状授与式

坂口さんは昨年神戸大学経営学部3年生の時にJMK奨学金に応募されて、奨学生に選出されました。彼女は神戸大学の協定校であるオーストリアのウィーン経済大学に交換留学生として派遣されて勉強してきました。(なお、賞金は昨年国際ゾンタ本部より留学先に送付済みです。)当クラブの田中会長から坂口さんに賞状がおくられました。授与式には指導教員である神戸大学大学院経営学研究科の南知恵子教授も出席されました。坂口さんは短いスピーチで、留学先のウィーンでの充実した勉強のことや、奨学金を出したゾンタクラブへの感謝の気持ちを述べられました。坂口さんはJMK奨学金地区賞に選ばれたことなどにより、神戸大学学長賞も受賞されています。

賞状授与式のあと、南教授から「国立大学初の経営学部と女子学生」という卓話をさせていただきました。その内容は以下のとおりです。

神戸大学経営学部はわが国初の経営学部であり、建学の精神は「学理と実際の調和」です。卒業生の就職先はメーカー、金融、保険などが多く、会計士をめざす人もいます。大学としては、企業でリーダーシップを取れる人材を輩出したいという希望を持っています。教育の特色は「体系的プログラムによる習得」(少人数によるゼミナールなど)、「高度な専門教育」(会計プロフェッショナル育成プログラムなど)、「留学プログラム」(海外の提携校との交換留学制度)などです。学部の南先生のゼミでは、学生たちのプロジェクト方式を採用しています。最近是企业とのつながりが増え、企業との共同研究、ビジネスコンテストへの学生の参加、外部講師によるゲスト後援などをおこなっています。ゼミでは問題設定と解決能力に焦点をあて、実践から理論をめざしています。

経営学部・大学院の現在の女子学生割合は約4分の1で、大学院の研究生には留学生や女性も多くいます。女子学生の就職先は銀行、損害保険会社、商社、メーカー、人材派遣会社、そして近年はベンチャー企業など多様ですが、必ずしも男子学生と同じくらい順調というわけではありません。今後の希望としては起業する女子学生が増えてほしいものです。

以上のことを南先生は昨年と今年のゼミ生たちのスライドなどをまじえて、分かりやすくお話してくださいました。先生の指導学生さんたちの楽しそうな様子を見ると、私もこんなゼミで勉強したかったなあとしみじみ思いました。



南教授、坂口さん、田中会長

ゾンタの愉快的音楽隊

牛田 三千子



大阪Ⅱゾンタクラブ銭太鼓チーム（名称を改め「ゾンタの愉快的音楽隊」）の本年度の奉仕活動は「ひょうごセルフヘルプ支援センター」設立15周年式典への参加でした。

同センターへの出演は、設立10周年式典以来ですがその折、障害を抱えた方々と合奏した「世界にひとつだけの花」のハンドベル演奏は忘れられません。

そして今回15周年では私たちの銭太鼓とハンドベル演奏で式典に花を添えるべく練習を重ねてきました。

本番は2015年11月29日でしたが準備は3月から始めました。まず、ここ数年銭太鼓から遠ざかっていたため、10年以上前に指導していただいた新元先生に連絡をとり再度ご指導いただくことにしました。新元先生は今や各所のカルチャーセンターなどで銭太鼓の普及・指導に当たっておられ、そのお忙しい中、新曲「河内おとこ節」を丁寧に教えてくださいました。

先生は熱心に教えてくださいますが、平均年齢68歳の私たち生徒のほうは、月1回のお稽古では遅々として上達せず、なかなか先生のご期待に添えるところには至りません。加えて夏からはハンドベルの練習も加わり、一時はどうなることかと思いましたがそこはゾンシャンの底力。DVDの模範演技を各自自宅で見ながら最後の1ヶ月でなんとか振り覚え、最終的には全員の振りや音が揃うようになりました。

当日は入念にリハーサルを行い150人の観客を前に、私たちとしては精一杯の演技演奏を披露することができました。

こうやって目標を持って努力し、かつわいわいと楽しみながら、見てくださる方にも喜んでいただける奉仕活動ができることほど幸せなことはありません。

今回メンバー9人うち一人の脱落者もなく、何とか無事終えることができたことを自信に、さらに来年のイベントに向かって頑張っていきたいと思っています。

新元先生にもこれをご縁に引き続き、厳しくも温かいご指導を頂いて、私たちの老化防止の一助にもなればと内心かんがえております。



神戸元町別館牡丹園

----- 尼木 純子



ゾンタⅡ納涼会と称して、8月8日（ちょうど淀川花火大会の日）梅田エスト内の「神戸元町別館牡丹園」にPM5時集合し、とても美味しい中華料理のフルコースをいただきました。

ゾンタの親しい仲間と美味しいねって言いながら、前菜7種、ふかひれの姿煮、あげワンタン、春巻き、レタス包み、小籠包2種、アワビのオイスターソース、ネギそば+焼き飯、マンゴープリンなどを感動しながらいただきました。これは一般的なコース料理では無く、何度も牡丹園で美味しい料理を賞味されたメンバーの選りすぐりの一品を順序良くオーダーメイドで用意していただいたもので、牡丹園のお料理の本当の良さをしっかり味わえる内容だったのが、とても嬉しく思いました。



当日は淀川花火大会の日で、人が溢れている梅田でしたが、本当に穴場で、味も雰囲気も良く心より満足のいくお料理でした。しっかり満腹になって、次はメンバーの所有されているタワーマンションに御呼ばれして、目の前で淀川花火大会の美しい花火を堪能させていただきました。本当に最高の思い出残る一日でした。ありがとうございました。

忘年会

Koshimo plus

----- 笹岡 厚子



27年度の忘年会は芦屋の隠れ家的レストラン Koshimo plus でフランス料理となりました。場所が分かりにくいため一同 JR 芦屋駅で待ち合わせ歩くこと7分ほどで閑静な芦屋川近くの住宅街のマンションの1階にあるレストランに到着いたしました。

フロアは20数名で満員となるようでしたが、テーブルの間隔が広くとってあるため、また床から腰高までの硝子窓が切っただけのためにシンプルでモダンなインテリアと相まってゆったりとした雰囲気がありました。スペースの割にキッチン、フロアで働く人が多くきびきびとして活気がありました。

6時から30分間例会をし2016年度のイベントに三林京子さんを講師としてお招きする事などが段取りよく決まり、6時半に忘年会の開宴となりました。

お料理のメニューは無く日々仕入れた食材をみてインスピレーションに基づいて献立を決められるそうで食べたらすぐに忘れてしまう私には記事に書くことはプレッシャーになりました。残念ながら欠席された方のため思い出しますと。まず白い紙の卵入れパッケージに入った4個のアミューズからスタートし、紀州の川柿と熟成チーズの前菜、ホタテ貝のソテーチンゲン菜のソース、鯖の炙り本わさびとへべすのソース添え、雲子のフリット鴨のコンソメスープ、甘鯛の焼き物、紫大根とワインビネガーソース、アンクルート赤ワインとトリュフのソース、デザートは栗とコーヒーのムース、黒ゴマのアイスクリームとコースが進みました。甘鯛の鱗付きの皮のぱりとした食感が秀逸でした。お料理と食器の取り合わせが良く工夫されて、デザートは絵画の様な美しさでした。皆様満足されて会話が弾み楽しい時間があっという間に過ぎました。

美味しくて素敵なお店を見つけていただき田中先生本当にありがとうございました。

大人の箱根・西伊豆 贅を味わう旅

芳川 た江子



2015年大阪Ⅱゾンタクラブの秋の親睦旅行は、「究極の箱根・西伊豆の旅」でした。

箱根・伊豆半島が最高に美しい旬の時期に予約困難な最高の佳宿・食事・珠玉の美術館巡りと盛りだくさんで、いつもながら田中茂美先生の企画力には感服いたします。

11月21日（土）新大阪16:30発の新幹線にて名古屋乗り継ぎで小田原へ出発しました。今回は2泊の為、土曜日の仕事帰りに、慌ただしく新幹線に乗り込みました。参加者は、尼木・笠置・田中・宮本・芳川の5名でした。小田原からタクシーで、エクシブ箱根離宮に到着し、スイートルーム3部屋に5名という何とも贅沢な感じでした。夕食は、エクシブ内のイタリアンで個室でゆったりと、とても美味しいコース料理をいただきました。鮑・タラバ蟹・オマール海老・和牛フィレ肉など、これ以上ない贅沢なメニューでした。その後、エステなどを楽しみ、それぞれスイートルームでゆったりと贅沢を味わっていただきました。



11月22日（日）の朝食は、エクシブ内の和食をいただき、9:30にジャンボタクシーで出発しました。まず最初は、岡田美術館に行き、そこはとても広く駆け足で見て回りましたが、東洋美術コレクションなどが有名で、また人気の琳派の名品展を開催中でした。その後、ポーラ美術館に行き、女性の美を追求した鈴木氏の印象派名品などを見て回りました。昼食は、強羅花壇の重要文化財の旧宮家の邸宅で和食をいただきました。趣のある所で、食事とても美味しかったです。その後、箱根芦ノ湖の成川美術館に行き、日本の名画とともに、美術館展望室からみる芦ノ湖と富士の絶景は素晴らしかったです。その後、修善寺の竹林の小路を少し散歩して、ジャンボタクシーで土肥温泉に向かいました。宿は、富岳群青という人気の宿で、たった8室しかなく、そのうち3室を私達5名が泊まり、何とも贅沢でした。各部屋に露天風呂がついていて、露天風呂から富士山を駿河湾越しに望めるという絶景の佳宿でした。夕食も個室で、和洋折衷のコース料理で、これもまた何とも美味しかったです。

11月23日（月）朝起きて露天風呂に入ると、何と目の前に富士山がくっきりと見え、感激しました。朝食は、また個室で和食をいただき、9:30にジャンボタクシーで出発し、堂ヶ島クルーズの船に乗りました。天窓洞に入り、洞窟内に光が差し込んでくると、何ともいえないコバルトブルーに光り、まるで青の洞窟でした。その後、西伊豆の漆喰で栄えた古い町並みの中にある漆喰芸術の殿堂である長八美術館に行き、漆喰の勉強をしました。その後、世界産業遺産に登録された葎山反射炉に行き、昼食は沼津倶楽部で和食のコース料理をいただきました。沼津倶楽部は重要文化財の松林が美しい建屋で、二期倶楽部が経営する格調高い料理旅館でした。その後、ジャンボタクシーで三島駅に着き、新幹線で帰路につきました。ジャンボタクシーもアルファードで乗り心地満点でした。この旅行は、何ともいえない贅沢の極みを尽くした2泊3日の旅でした。心身共にリフレッシュでき、また日々の仕事に励みたいと思います。

編集後記

この号が出るのは3月の予定です。広報紙が年2回、3月と9月に定期的に発行されるようになって、もう数年になります。私の勤務先である神戸大学の生協を通じて製作・印刷をお願いしているのですが、担当の方もこの広報紙のレイアウトに慣れて、いつも見やすく素敵な構成にしてください。「継続は力なり」ですので、100号発行(!)をめざしてがんばっていきたいものです。 坂本 千代